

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

ユイチュ(玉珠)峰登山ー中国人スタッフのことー



玉珠峰の雄姿

山登りの楽しみの一つに人との出会いがある。見知らぬ土地で見知らぬ人との出会い。そこに又、新しい世界が広がる。

去る年の7～8月、自衛隊山岳連盟の若い人達のお手伝いで中国青海省のユイチュ峰(玉珠峰)(6179m)に出かけた。崑崙山脈の支脈・パヤンブダイ山系の最高峰である。BC建設からの登攀期間10日間という限られた日程での登攀だったが、若い人達の頑張りで、南西稜経由で無事の登頂を果し得た。登攀の技術的記録はともかくとして、本稿は本登山を手伝ってくれた中国側スタッフのお話です。

中国の登山には、事前に中国登山協会に申請して入山許可を受け、登山計画に関する議定書の取り交わしという面倒な手続きが必要である。そして中国登山協会からは連絡官が派遣され、入国から出国まで同行する。また、青海省の山に登るからには、青海省登山協会の便宜供与と支援員の同行を受けることが義務付けられる。要するにこれらは、辺境に入城する我々外国人のお目付け役、という意味合いであろう。

今回は、中国登山協会(北京)からは連絡官Y氏、青海省登山協会(西寧)からは通訳兼連絡官W君、運転手T君・R君が同行した。西寧派遣の3人は人懐っこく陽気



ツァイダム沙漠を走る

で、何かと世話焼きでもあった。

青海省の首都の西寧から玉珠峰へは約1000km、青蔵公路を車で走る。特に青海湖を過ぎ橡皮山峠を越えた後の約800kmは、草木も生えないツァイダム沙漠をひた走ることになる。半日行程間隔で小さなオアシスが点在し、そこに茶店があったり宿泊所がある。この辺の交渉はT君の独壇場で、我々は彼に任せられて、食べて寝るだけである。食事は、肉類は滅多にないが、様々な野菜を炒めた料理が、毎回7品も8品も山盛りで出てくるのには辟易した。とても食べ切れるものじゃない。それを肴に彼らは、青稞酒という強い酒をグイ飲みする。日本側は、往路は登攀の高所順応のために禁酒を申し合わせ、お茶で付き合ったが、とにかく彼らはよく食べ、よく飲み、よく騒ぐ。

BC設営後も、我々の登攀活動間、食堂テントは、留守を守る彼らの宴会会場と化した。我々が彼らの宴会に合流したのは、登頂を終え全員がBCに帰着して以降だった。



BC全景(右端が食堂テント)



登頂祝賀会(食堂テントで)

さて、登山を終えて西寧に帰着したら、我々の使ったテントや登攀用具の多くを青海省登山協会に寄付して帰るつもりでトラックの荷台に積んだままにしていた。ところが西寧帰着が夜遅くなったので、翌朝トラックを見に行ったら、荷台には殆んど何も残っていなかった。奇怪?!。